

古屋誠一 メモワール。

愛の復讐、共に離れて…



ウィーン、1983

会期 2010年5月15日(土)～7月19日(月・祝)

会場 東京都写真美術館2階展示室

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、産経新聞社

協力 オーストリア大使館、IZU PHOTO MUSEUM、株式会社アイワード、
フォト・ギャラリー・インターナショナル

後援 サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、iza!、SANKEI EXPRESS

■展覧会概要

東京都写真美術館では、1970年代からヨーロッパを拠点に活動する古屋誠一の「メモワール。」展を開催いたします。

古屋誠一は、1950年静岡県に生まれ、1972年に東京写真短期大学（現東京工芸大学）を卒業後、1973年にシベリア経由でヨーロッパに向かい、1987年以降はオーストリアのグラーツを拠点に精力的に作品制作を続けています。隣接する国々の国境地帯やベルリンの壁など、様々な「境界」を問う作品を発表する一方、オーストリアの写真批評誌『カメラ・オーストリア』では、創刊時から編集に参加し、日本の写真家をヨーロッパに紹介するなど、幅広い活動を展開しています。

1985年に東ベルリンで自ら命を絶った妻クリスティーネを撮影した写真集『Mémoires (メモワール)』では、家族が抱える闇や悲しみ、社会における生と死の問題を露呈し、国際的に高い評価を得ました。主な著作に、1980年に滞在したアムステルダムからなる写真集『AMS』、『Seiichi Furuya Mémoires 1995』などがあり、2002年には『Last Trip to Venice』により第27回伊奈信男賞、2007年には『Mémoires 1983』により第19回写真の会賞を受賞のほか、国内外の展覧会に多数参加しています。近年は、妻クリスティーネの手記を掲載した写真集も制作し、現代社会における家族のあり方を問う写真家としても注目を集めています。



東ベルリン、1986

本展は、1989年より20年あまり発表し続けている「メモワール」の主題の集大成となる展覧会です。「彼女の死後、無秩序な記憶と記録が交差するさまざまな時間と空間を行きつ戻りつしながら探し求めていたはずの何かが、今見つかったからというのではなく、おぼろげながらも所詮なにも見つけはしないのだという答えが見つかったのではないか」(2010年1月インタビューより)という古屋の思いは、ピリオドを打った展覧会タイトル「メモワール。」にも表れています。

事実と正面から向き合い、もう一人の自己を相手に、時間と空間を超えて生き続ける記憶を、蘇生させ編み直してきた古屋の制作活動。「写真とは心の奥深くに籠る“どうしようもない何か”と向き合い、さらにそれを表現の場へと引き上げることを可能にしてくれる素晴らしいメディアである」という古屋の表現の世界を、東京都写真美術館収蔵作品「Mémoires (メモワール)」シリーズを中心に124点で展覧します。また、古屋作品の真髄でもある写真集の編集過程を公開、古屋自らが編集・製本した未発表の自家版写真集も出品いたします。



左) 伊豆、1978 中) ウィーン、1982 右) グラーツ、1997

■関連プログラム

※当初予定の対談イベントは、古屋氏の体調不良により、ゲストのトークイベントに変更いたしました。ご了承をお願いいたします。

<トークイベント>

○小林紀晴 (写真家) 日時：6月4日 (金) 18:30~20:00

テーマ「10年の旅、古屋誠一を追って」

司会進行：石田留美子 (東京都写真美術館 学芸員)

古屋誠一を追いつけて10年という、小林紀晴氏によるスライド上映とトーク。今春グラーツにて行った作家へのインタビューの様子など、古屋作品の真髄に迫ります。現在、小林氏は集英社から出版予定の古屋誠一をめぐる書籍を執筆中です。

○荒木経惟 (写真家) 日時：6月5日 (土) 18:30~20:00

テーマ「愛の復讐、共に離れて…」

司会進行：笠原美智子 (東京都写真美術館 学芸課長)

「センチメンタルな旅」等、妻のポートレートでも知られる荒木経惟氏が語る古屋誠一作品の魅力とは？古屋氏はかつて荒木氏の個展をグラーツで企画する等、ふたりは80年代から交流があります。今回は、古屋作品を初期から知る写真家として、その魅力を追究します。

<学芸員によるフロアレクチャー>

第1・3 金曜日 14:00～

※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、2階展示室入口にお集まりください。

■展覧会カタログのご案内

「古屋誠一 メモワール、愛の復讐、共に離れて…」

発行：産経新聞社 価格：2500円（税込）※当館ミュージアムショップ ナディッフバイテンにて販売します

■作家紹介

古屋 誠一（ふるや せいいち）

- 1950 静岡県に生まれる
- 1972 東京写真短期大学（現東京工芸大学）卒業
- 1973 ウィーンに移住
- 1975 グラーツに転居
- 1978 クリスティーネ・ゲッスラーと結婚
- 1989 「ヨーロッパ・コダックブック賞」受賞
- 1990 「第2回写真の会賞」受賞
- 1992 「第8回東川賞、新人作家賞」受賞
- 1993 「カメラ・オーストリア賞」受賞
- 1995 オーストリア政府から海外アトリエ滞在奨学金を受け、パリに滞在
- 1996 オーストリア政府から写真奨学賞を受ける
- 1999 「ルペルティヌム賞」受賞、ルペルティヌム美術館、ザルツブルグ、オーストリア
- 2002 「第27回伊奈信男賞」受賞
- 2004 オーストリア政府から写真功労賞を受ける
「さがみはら写真賞」受賞
- 2006 オーストリア政府から海外アトリエ滞在奨学金を受け、パリに滞在
- 2007 「第19回写真の会賞」受賞
- 現在、グラーツ（オーストリア）在住



ヴェルドン、1981

古屋誠一は1950年静岡県西伊豆に生まれる。東京写真短期大学（現東京工芸大学）を卒業後、1973年横浜港を発ちシベリア経由にてヨーロッパに向かう。75年までウィーンに居住、その後グラーツ市に移転、78年2月にクリスティーネ・ゲッスラー（1953年グラーツ生まれ）と出会う。二人は同年5月に結婚。81年、息子、光明・クラウスが誕生する。82年、クリスティーネの演劇勉強のために一家はウィーンへ移り住むが、84年には誠一が通訳として職を得た東ドイツのドレスデンに転住し、85年に東ベルリンに移る。

82年の末ごろからクリスティーネに統合失調症の兆候があらわれる。83年春にグラーツにて初めての入院治療を受け、演劇勉強を中断せざるを得ず、以降入退院を繰り返す。東ドイツ建国36周年記念日にあたる85年10月7日の正午過ぎ、一家の住む共同住宅の9階からクリスティーネ、身を投げる。誠一は87年通訳の仕事を終え、光明とともにグラーツに在住、現在に至る。

古屋は75年以降、フォルム・シュタットパーク（グラーツ）、ヴィンタートゥール写真美術館（ヴィンタートゥール）、アルベティーナ（ウィーン）、ヴァンジ彫刻庭園美術館（三島）など国内外で多くの展覧会を開催。また、89年に出版された写真集「Mémoires 1978-1988」（カメラ・オーストリア）以来、クリスティーネの写真を軸に編まれた「Mémoires 1995」（スカロ、1995）、「Christine Furuya-Gössler, Mémoires 1978-1985」（光琳社、1997）、「Portrait」（Fotohof、2000）、「Last Trip to

Venice」(自家版、2002)、「Mémoires 1983」(赤々舎、2006)などの写真集を発表してきた。さらに、写真誌「カメラ・オーストリア」の創刊・編集にも参加し、「森山大道」(1980)、「東松照明：日本1952-1981」(1984)、「荒木経惟：Akt-Tokyo, 1971-1991」(1992)、「Keep in Touch: Position in Japanese Photography」(2003)他、日本の写真家をヨーロッパに紹介するなど幅広い活動を展開している。

古屋の作品は、市立近代美術館(アムステルダム)、東京都写真美術館、東京国立近代美術館、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館(ニューヨーク)をはじめ、多くの国際的な美術館に収蔵されている。



グラーツ、2001

主な個展

- 1989 「Mémoires (メモワール)」、州立美術館ノイエ・ギャラリー、グラーツ、オーストリア
- 1990 「Mémoires (メモワール)」、ウィーン近代美術館、ウィーン、オーストリア
「Mémoires (メモワール)」、ペルスペクティブ、ロッテルダム、オランダ
- 1991 「Staatsgrenze (国境)」、ブルーノ近代美術館、ブルーノ、チェコスロバキア
「Mémoires (メモワール)」、パルコギャラリー、東京
「Mémoires (メモワール)」、exposure、東京
- 1994 「Zu Hause in Berlin-Ost (東ベルリンに住む)」、フォルム・シュタットパルク、グラーツ
「Vertreiben-Flüchten (追放-逃避)」、ツァイト・フォト・サロン、東京
「Border/Borderless」、フォトホフ、ザルツブルク、オーストリア
- 1995 「Mémoires (メモワール)」、ヴィンタートゥール写真美術館、ヴィンタートゥール、スイス
- 1997 「Christine Furuya-Gössler 1978-1985」、ギャラリー・パストレイズ、神奈川/ギャラリー那由他、神奈川
/J.M. ギャラリー、東京/Ebisu Studio Gallery、東京/EGG Gallery、東京/新宿ニコンサロン、東京/
Verso Photo Gallery、東京/タカ・イシイギャラリー、東京/ WORKS. H、神奈川
「Mémoires (メモワール)」、ロバート・ミラー・ギャラリー、ニューヨーク
- 1998 「Mémoires (メモワール)」、ブラウンシュヴァイク写真美術館、ブラウンシュヴァイク、ドイツ
「Christine Furuya-Gössler 1978-1985」、ニコンサロン、大阪
- 2000 「ポートレート」、サン・トロフィーム、アルル、フランス
「東ベルリン 1986-1987」、La Camera、東京
「ポートレート」、スカロ・ギャラリー、チューリッヒ、スイス
- 2001 「クリスティーネ」、スカロ・ギャラリー、ニューヨーク
「ポートレート」、カメラ・オーストリア、グラーツ
- 2002 「Last Trip to Venice (ヴェニスへの最後の旅)」、新宿ニコンサロン、東京/大阪ニコンサロン、大阪
- 2003 スカロ・ギャラリー、チューリッヒ
- 2004 「alive (生きている)」アルベティーナ、ウィーン/カメラ・オーストリア、グラーツ
- 2005 フォト・フォルム、ポーツェン
- 2007 「Aus den Fugen (脱臼した時間)」、ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡
「im Fluss (流れゆく)」、ラットホール・ギャラリー、東京
「Mémoires (メモワール) 1983」、PLACE M、東京
- 2010 「トレース・エレメント」オランダ・葬儀美術館、アムステルダム
「Mémoires. (メモワール.)」東京都写真美術館/熊本市現代美術館
「Aus den Fugen (脱臼した時間) 2010」ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡

主な出版物

- 『AMS』、Edition Camera Austria、グラーツ、1980年
『Mémoires』、Edition Camera Austria、グラーツ、1989年
『Seiichi Furuya, Mémoires 1995』、Scalo、チューリヒ、1995年
『Christine Furuya-Gössler, Mémoires, 1978-1985』、光琳社出版、京都、1997年
『Portriat』、Fotohof、ザルツブルク、2000年
『Last Trip to Venice』、私家版、グラーツ、2002年
『alive』、Scalo、チューリヒ、2004年
『Mémoires 1983』、赤々舎、京都、2006年
『Aus den Fugen』、赤々舎、京都、2007年
『Mémoires. 1984-1987』、NOHARA、東京/Camera Austria、Graz、2010年

■ご利用案内

- 展覧会名 古屋誠一 メモワール. 愛の復讐、共に離れて…
Seiichi Furuya Mémoires.
- 会 期 2010年5月15日(土)～7月19日(月・祝)
- 会 場 **東京都写真美術館** 2階展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099
JR 恵比寿駅東口より徒歩7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
- 主催関係 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、産経新聞社
協力 オーストリア大使館、IZU PHOTO MUSEUM、株式会社アイワード、
フォト・ギャラリー・インターナショナル
後援 サンケイスポーツ、夕刊フジ、フジサンケイビジネスアイ、iza!
SANKEI EXPRESS
- 開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館30分前まで
休館日 月曜日(ただし7月19日は開館)
観覧料 一般 800(640)円/学生 700(560)円/中高生・65歳以上 600(480)円
※()は20名以上団体料金および東京都写真美術館友の会会員
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

※この展覧会は下記美術館との共同企画です

熊本市現代美術館 2010年9月18日(土)～2010年11月28日(日)

※同時開催

- 展覧会名 古屋誠一「Aus den Fugen」展
- 会 期 2010年5月21日(金)～8月31日(火)
- 会 場 ヴァンジ彫刻庭園美術館 企画展アートスペース
静岡県駿東郡長泉町クレマチスの丘 347-1 (お問合せ: 055-989-8785)
アクセス/JR三島駅より無料シャトルバスあり
- 休館日 水曜日(祝日の場合は、翌日休) 開館時間: 10:00-18:00

■お問い合わせ先

- 東京都写真美術館 事業企画課 Tel.03-3280-0034/Fax.03-3280-0033
展覧会担当 石田 留美子 rishida@syabi.com 丹羽 晴美 h.niwa@syabi.com
広報担当 久代 明子 a.kushiro@syabi.com 前原 貴子 t.maehara@syabi.com

※このリリースに掲載されている作品図版を、プレス用にデータをご用意しています。
ご希望の方は広報担当までお問い合わせください。